

帝京平成大学大学院
論文審査結果の要旨

氏 名	小串 興平		
論文名	病院薬剤部門における離職防止対策に関する研究		
審査委員	区 分	職 名	氏 名
	主 査	教授	伊東 明彦
	副 査	教授	菊地 真実
	副 査	教授	富田 隆
要 旨			
<p>本研究は、医療の安全管理および質向上のために重要な役割を担っている病院薬剤師の離職問題への対応に関して、医療職における離職顕在要因として実際に離職した要因および病院薬剤師の離職に至る可能性のある理由（潜在要因）を調査し、種々の統計手法を効果的に駆使して調査結果を解析し、病院薬剤師の離職に関わる要因を明らかにすることで病院薬剤師独自の離職防止対策を提案している。</p> <p>医療職における離職顕在要因の検討においては、離職経験のある医師、薬剤師、看護師の各職種における職場における離職顕在要因として就労意識、満足度、心理的ストレス、周囲のサポート等を地域性も含め調査し、さらに離職前後での変化も調査している。その結果を基に各職種の主要な離職理由および各職種間における離職理由の関係性について解析し、年齢層や性別により病院薬剤師と他職種とで類似するもの、相違するものを明らかにしており、それにより病院薬剤師独自の離職防止策を検討することが可能となった。</p> <p>さらに病院薬剤師の離職潜在要因の検討では、現職の病院薬剤師に対して勤務先に対する就労意識、離職に至る可能性がある理由を調査し、さらに現在の勤務先に対する職務満足度について個々の薬剤師の職種満足度を客観的に測定することができる病院薬剤師版職務満足度測定尺度（JOBSS-HP27）を用いて調査している。その結果を基に統計解析し離職潜在要因を抽出し、勤務継続意識を高める要因について明らかにしている。これにより病院薬剤師独自の離職防止策を提案している。</p> <p>本研究で得られた結果は、これまで漠然としていた離職要因が明らかとなり、病院薬剤師の就労環境や職務満足度など就労状況に関する基礎資料となり、労務管理の適正化、スタッフの計画的育成、職場環境の整備、職務満足度の向上による離職防止などに活用できる重要な情報である。また、薬剤部門管理者が病院の経営・管理者に対して、職場環境改善の提案の科学的根拠としても有用であると考ええる。</p> <p>以上のことから十分に学位論文に値すると評価する。</p>			